

4班 若松東部・北部の観光資源化研究

【若松の現状と観光資源】 「若松」といえば…？

- ① 港湾都市 鉄道や船舶など
- ② 自然都市 山や海岸、キャンプ場などの豊富な自然
- ③ 豊富な物産 潮風キャベツ・水切りトマト・若松牛・海産物など
- ④ 地理的特性 九州最北端・アジアに近い・海洋性気候により穏やかな気候
- ⑤ 環境都市 クリーンエネルギーの活用

【観光都市「若松」になるには？】

北九州市は持続可能な社会に向けて意欲的に取り組んでいる。私たちの班は、SDGsにある17の目標の中から5つに着目して、研究を進める。



研究テーマ

「若松」の魅力はどのような点にあるか考え、「若松」の良さを世界に発信しよう!!!

【研究内容】

○訪問場所 JA若松「かっぱの里」・「海と大地」・有毛地区による就農体験・地域創生

○方法 フィールドワークを通して、若松の観光の活性化について4つの視点から考える

JA若松「かっぱの里」

気づいた点

- ◆ 様々な野菜があり、それ以外も品目が多い
- ◆ 店舗内に米が直売され、その場で脱穀もできる
- ◆ 関連の家庭菜園施設があるため、自分好みの作物栽培が可能

良い点

- 品物も豊富で、旬の野菜が多い
- 野菜の隣に店が動けるドレッシングがあった
- 昔ながらのお菓子や様々な種類のジャムがあった
- 6次化産業についても意欲的であり、今後の発展が見込まれる

課題点

- ▲ 特産品などを活用したイベントが欲しい
- ▲ 若者に合わせた商品を増やしてほしい
- ▲ 詰め合わせが欲しい

4つの視点から

- ① 若者班
 - ・ SNS等で宣伝をし、若者に興味を持たせる (例) 野菜早食い対決などのイベント
 - ・ 季節ごとの特産品の詰め合わせを開発
- ② 家族班
 - ・ ターゲットを高齢者にしてしまうとため、子どもが来なくなるようなイベントや、親が買い物を楽しめるようにする必要がある (展示やイベントなど)
- ③ 高齢者班
 - ・ 高齢者が品物を取りやすい配慮が感じられたが、平場に陳列した結果、通路の確保が困難で、車椅子の利用者などには厳しい。そこで陳列を立体的に配置して、通路を広げたら良いのではないかと
- ④ 県外者班
 - ・ 旅行の際のお土産になるような商品の開発
 - ・ YouTube等での商品の販促活動やネット販売による販路の拡大

《考察・今後の取組》

- ① SNSなどを活用してイベントなどの宣伝をすること
- ② 季節ごとの特産品の詰め合わせを開発し、情報を発信すること



学改創新

「海と大地」

気づいた点

- ◆ 若松牛や地元で取れた魚以外にも県外から取り寄せた商品などお客様を楽しませる工夫がある

良い点

- 朝採れた新鮮な魚が数多く品揃えされている
- 地元で取れた野菜もあれば県外の商品もあり幅広く手に入れることができる
- 野菜や肉以外にも県外から取り寄せられたスナックにはない珍しいお菓子がある



4つの視点から

- ① 若者班
 - ・ かき氷などの若者を意識した商品がある
 - ・ 食堂がある
 - ・ 魚介類などが豊富にある (課題点)
 - ・ 観光バス等の移動手段の確保
 - ・ 魚の捌(さば)き方講座など、体験活動の充実
- ② 家族班
 - ・ ターゲットを高齢者にしてしまうとため、子どもが来なくなるようなイベントや、親が買い物を楽しめるようにする必要がある (展示やイベントなど)
- ③ 高齢者班
 - ・ 牡蠣小屋など季節の特産品がある
 - ・ 食堂ですぐに食べることが可能
 - ・ お酒の豊富な品揃え
 - ・ 旬な海産物を買うことができる (課題点)
 - ・ 配送などの対応
- ④ 県外者班
 - ・ 試食コーナーが揃えられていた
 - ・ 国産品や安く新鮮なものが充実していた
 - ・ すぐに食べられるように、弁当などが充実 (課題点)
 - ・ 売り切れなどの迅速な対応

《考察・今後の取組み》

- ① 近隣の駅から離れているため、移動手段の確保が困難 ⇒ 観光バスの活用により移動手段を確保することができる
- ② 魚を捌(さば)いた経験がない人もいるのでは? ⇒ 「魚の捌(さば)き方講座」等でお客様の購買意欲向上につなげる

有毛地区による就農体験



若松ブランド「潮風キャベツ」

福岡県で収穫量第1位。より美味しいものになるために有機土壌を使って育てることが重要なポイント。ブランド名にもなっている「潮風」を浴びることによりミネラルたっぷりのキャベツを作ることができる。キャベツを作る上で大切になって来る土は、生菌醸造による100%動物性有機高級肥料をふんだんに使い、有機質中心の土壌づくりをすることで環境にもやさしく、旨み濃厚で高品質な土を作ることができる。

4つの視点から

- ① 若者班
 - ・ キャベツの水やり等を体験して、手作業での大変さを知った
 - ・ さつまいもでは機械でいかに楽になるかを知った (課題点)
 - ・ ブランド力の向上、SNSの発信
 - ・ レシピの考案
- ② 家族班
 - ・ 収穫は半年に1回
 - ・ 植えるのが一日遅れると収穫が1週間遅れる
 - ・ 育てる時はストレスがないように人間と同じようにいかに快適にするかが大事 (課題点)
 - ・ 鮮度を保つ輸送路の改善
- ③ 高齢者班
 - ・ 高いブランド力
 - ・ 生産量が多い
 - ・ 鮮度の良さ
 - ・ 健康志向に伴う高い需要 (課題点)
 - ・ その野菜単体で食べることは少ないため、関連商品の開発や効能性を前面に出す
- ④ 県外者班
 - ・ ブランド性があるため、注目されている。
 - ・ 新鮮で安価
 - ・ 都市圏への輸送 (課題点)
 - ・ 鮮度の確保の問題
 - ・ 関東圏など他の地域まで販路を拡大できるか
 - ・ 関連商品の開発 (加工食品など)

《学んだこと》

- ① 水やりなどをして、手作業での農業の大変さを知った
- ② 機械を使うことで、作業が楽になるかを体験することができた

九州国際大学での講義



学んだこと

- ① 地域の方々と話をし、信頼を得る → 「人間関係の重要性」「信頼は裏切らない」
- ② 人の話をよく聞いて、人に伝えることができる能力の必要性
- ③ シャッター街を利用したインスタスポット
- ④ 地域の人々を巻き込んでの観光資源化 (1年中遊べる砂浜・水上アスレチックなど)

《これから取り組めること》

- ① 地域交友
- ② その土地にしかないもので魅力を伝える

若松の魅力

① 景色 若戸大橋を基調とする夜景を中心に、イルミネーションなど夜の観光を楽しむことができる。



② 有毛地区での自然の景色 海の近くで咲くひまわりはとても魅力的できれい。



③ お土産など加工品 ワンコインで買って帰れる地元野菜を使った加工品などがたくさんある。

